

研究・調査報告書

報告書番号	担当
292	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Preventing high-risk drinking in youth in the workplace: A web-based normative feedback program 若年者の危険飲酒を防ぐ職場での対策: ネットワーク利用の規範的フィードバックプログラム	
執筆者 Diana M. Doumas, Elizabeth Hannah	
掲載誌 (番号又は発行年月日) J Subst Abuse Treat. 2008 Apr;34(3):263-71.	
キーワード アルコール, コンピュータ, オンライン, フィードバック, 予防	
要 旨 目的: ネットワークを利用した若年者の危険飲酒予防のための職場でのプログラムの有効性を検討した。	
方法: 124人の参加者が以下の3方法に無作為に割り当てられた。方法1: ネットワーク利用フィードバックプログラム、方法2: 方法1+危険飲酒予防のための15分の面談、方法3: 対照群。	
結果: 30日間の追跡期間後、対照と比べ方法1と方法2を実施した対象者を合算した場合、飲酒量が有意に低下した。このことはとくに追跡開始時に高リスク例と判断された研究参加者において顕著であった。対照と方法1を比べても同様の結果であった。また方法1と方法2の間に有意差はなく、危険飲酒予防のための15分の面談の追加はネットワーク利用のフィードバックプログラムの有効性を増加させることにはならなかった。	
結論: ネットワーク利用フィードバックプログラムは若年者の危険飲酒を防ぐ職場での対策として有用である。	